指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	算　数

	指導方法の課題分析 （学習における児童の実態等）	具体的な授業改善策	改善状況 ◎○△
第1学年	○思考・判断・表現 ・文章題では、問題を読み取る力の不足が原因で、正しく立式できていないことがあると考えられる。	・キーワードを整理しながら、繰り返し学習経験をさせ、多くの問題にふれ、身に付けさせていく。また、文章題を図示し、イメージをもたせたり、問題提示を易から難へ進めるよう具体的に教材の精選をしたりしていく。	
第2学年	○思考・判断・表現 ・文章題など具体的事象から、立式することが苦手な児童が多い。	・文章題から直接数字をつかった式にせず、「もっていた数－くばった数」など日本語を用いた式で解説し、段階的に数式化することで理解を促す。	
第3学年	○思考・判断・表現 ・基礎的な力が定着している。考えを表現することへの意欲も高いが、自分の考え方を表現するための手段が少ない。	・毎時間、自力解決や検討の時間をしっかりと取り、児童の良い表現方法を共有・称賛したり、教師から模範を示したりする機会を増やすことを通して、児童の表現手法を豊かにしていく。	
第4学年	○思考・判断・表現 ・既習事項を生かして、問題解決をすることが苦手な児童が多い。 ・解決の過程や結果を多面的に捉え、考察することに苦手意識をもつ児童が多い。	・答えを出すことだけを重視せず、なぜそのように考えたか、どうしてそのように言えるのかを、図や既習事項などの根拠をもって表したり説明したりする時間を設ける。	
第5学年	○知識・技能 ・既習事項が定着していないために、新しく学習する内容についていけない児童がいる。 ○思考・判断・表現 ・文章問題を正しく読み取り、自分の考えを表現することに苦手意識がある児童が多い。	・単元に合わせて、それに関連する前学年までの学内容を復習する時間を設ける。 ・図に表したり文に表したりして自力解決する活動や、友達に説明したり友達の考えを読み取ったりする機会を多く設定する。	
第6学年	○知識・技能 ・既習事項を活用することができない児童がいる。 ○思考・判断・表現 ・割合や単位量の関係を捉える問題を苦手としている児童が多い。	・既習内容を日常生活や社会生活で生かせる活動を行い、定着を図る。 ・式の意味を、数直線や図で表して関係を理解できるように促す。	